

枕

枕は安眠するために頭にあってがう寝具で、疲労を回復させるためには背中がまっすぐになる姿勢が良いため、六〇九センチメートルほどの高さの枕が良いと言われています。材質は、時代や用途によって異なりますが、木製・竹・籐を編んだものなどがあり、布袋の中にソバ殻・茶殻・綿・稲藁などを入れて両端を縛った括枕が多くありました。また、頭を冷すと睡眠しやすいということで、陶磁器製の陶枕



や石製も用いられました。のちに陶磁器製には、長命や厚生（健康を維持増進し生活を豊かにする）・福德（善行によって得る福利）などのめでたい文字を入れ、願い事がかんうように祈

りを込めました。さらに虎や獅子などの強い動物を支えの部分にあしらひ魔除けの意味をもたせ長寿を願ったり、高貴な色である紫色の枕を贈る風習もありました。

江戸時代には男女の鬘が大きくなり、寝るための工夫が必要になったため、括枕の下に台を付けた箱枕が使われるようになり、首の支えとしました。台に引出しを付けて小物が入るようになり工夫したものや旅先で用いた折りたたみ式の携帯用のもの、盗難防止用の金庫がわりのもなど形式も多く用途もさまざまでした。

資料館では、近世の箱枕・あづち枕・船底枕・陶枕・籐枕・折りたたみ枕を展示し、枕の変遷や概略も併せて紹介しています。

私のコレクション

更紗型紙

(加藤嘉八)

よみがえった古布たち

(吉岡一子)

【会期】

6月8日(火)~7月4日(日)

【開館時間】

午前9時~午後5時

【休館日】月曜日

【入館料】無料

お誘い合わせのうえ、
お出かけください。



笠松町歴史民俗資料館

〒 501-6052 笠松町下本町 87

☎ 388-0161 FAX 388-0185

長良川流域市町村の『川文化ネット◇ながろ』交流コーナー

10



山県市 オールシーズン遊べる伊自良湖

夏は涼を求めるリゾート地、秋は山々の紅葉、冬はワカサギ釣り、そして春には湖のまわりをめぐる桜が満開になります。四季折々の伊自良湖を家族で、カップルで楽しんでみてはいかがでしょうか。また、高さ約20mの噴水が勢いよく吹き上げています。周辺には、キャンプ場や馬頭観音で有名な甘南美寺もあり、リラックスした一日を過ごすことができます。

[アクセス] 新岐阜から伊自良長滝行きで約60分
(夏場は伊自良キャンプ場行きに乗り)

[問合せ] 総合企画課 (☎0581・22・6824)

